

「新潟市新型インフルエンザ等対策行動計画（改正案）」に対する 市民意見募集で頂いた市民からのご意見および市の考え方と対応方針

令和8年1月5日から令和8年2月6日の33日間、パブリックコメントを実施し、いただいた意見の概要、意見に対する市の考え方、計画案における対応など整理しました。

・市民意見：3件（1名）

No.	該当箇所	ご意見の内容	ご意見に対する市の考え方	案の修正
1	無	<p>空気感染に関して、</p> <ul style="list-style-type: none">・室内空気の質・換気・空気清浄・気流・湿度・ウイルスの環境中での挙動といった要素が一般的に重要とされていますが、計画の中では体系的に扱われていないように見受けられました。 <p>空気感染が政策として扱いにくい理由の一つに、ウイルスの空気中サンプリングが技術的に難しいという課題があると理解しています。</p> <p>しかし、だからこそ、この領域の研究支援や技術開発を計画に位置づけていただくことが、将来的な対策強化につながるのではないかと考えます。</p> <p>海外の事例として、イギリスの UK Health Security Agency (UKHSA) は、インフルエンザを含む呼吸器ウイルスの感染経路として、飛沫・接触に加えて空気中に滞留する微小粒子（エアロゾル）による感染を重要な経路として位置づけています。</p> <p>そのため英国では、換気・空気清浄・室内空気質の改善が公衆衛生政策の基本要素として扱われています。</p> <p>こうした国際的な知見も参考になると感じました。</p> <p>また、衣服に付着した微粒子が室内で再浮遊する可能性や、乾燥環境でのウイルス挙動、掃除機による再飛散など、一般的に知られている環境要因も、感染リスク評価の観点から計画に反映されると、より実態に即した内容になるのではないかと思います。</p>	<p>本計画では発生後の行政対応について記載しているものであることから特段の加筆は行いませんが、計画に限らず感染症対策のために換気などを行うことは有効であると認識しており、常日頃から換気を行うことを呼びかけていきます。</p>	無
2	第10章 検査体制	<p>検査体制について、主に「発生後の検査提供体制の確保」が中心で、日常的な早期発見の視点がやや弱い印象を受けました。</p> <p>現在一般に市販されている迅速検査試薬</p>	<p>市販の迅速検査薬は、正しく保管し期限内に適切に使用されることで効果が得られるものですが、市民1人1人の考えや費用対効果の点から、補助や無償での提供については難しいと考え、特段の加筆</p>	無

		<p>は、特定のウイルスタンパク質を認識するモノクローナル抗体を使用しており、型をまたいで検出可能な抗原を標的とするものも存在するとされています。</p> <p>そのため、新型インフルエンザウイルスであっても、既存の迅速検査試薬で検出できる可能性は一定程度期待できると考えられます。</p> <p>こうした特性を踏まえると、家庭や個人が迅速検査試薬（OTC）を常備できる環境整備は、感染拡大の早期抑制に寄与する可能性が高いと感じます。</p>	<p>は行いません。</p>	
3	第7章 ワクチン	<p>ワクチンは重要な対策手段である一方、一般的に一定割合のノンレスポnderが存在することも知られています。そのため、ワクチンに過度に依存するのではなく、空気環境・検査・行動対策を組み合わせた多層的な予防策を計画に明確に位置づけていただけると、より実効性の高い対策になると考えます。</p>	<p>本市では予防のための手段の一つとしてワクチン接種は重要なものと考えていますが、ワクチンだけではなく、他の項目（まん延防止や検査等）も並行して実施していく計画としていることから、特段の加筆は行いません。</p>	無